

目 次

1 共通科目	
① 特別研究	2
② 課題研究	3
③ 健康情報論	4
④ 保健統計論	5
⑤ 健康環境論	6
⑥ 看護研究論	7
⑦ 看護理論	8
⑧ 看護倫理	9
⑨ ペアレンティング学	10
⑩ 看護英語	11
2 看護教育・看護管理学分野の特色（看護教育・看護管理学領域）	
分野の特色	12
① 看護教育・管理学特論Ⅰ	13
② 看護教育・管理学特論Ⅱ	14
③ 看護教育・管理学演習	15
④ 保健医療情報学演習	16
3 母子看護学分野（母子看護学領域）	
分野の特色	17
① 母子看護学特論Ⅰ	18
② 母子看護学特論Ⅱ	19
③ 母子看護学演習（1）	20
④ 母子看護学演習（2）	21
4 成人・老人看護学分野（成人・老人看護学領域）	
分野の特色	22
① 成人・老人看護学特論Ⅰ	23
② 成人・老人看護学特論Ⅱ	24
③ 成人・老人看護学演習（1）	25
④ 成人・老人看護学演習（2）	26

1. 共通科目

特 別 研 究

到達目標

大学院で学んだ科目の成果をふまえ、自己の研究テーマについて教員と論議を行い、研究計画書を作成する。そして、倫理的な配慮のもと根拠に基づいた研究方法・成果をふまえて論文を完成し発表する一連の研究プロセスを修得する。

特別研究（研究計画立案）

- ・課題意識を明確にし、研究テーマを設定できる。
- ・研究テーマに関する文献レビューし、研究課題を位置づけられる。
- ・研究枠組みおよび概念枠組みを明確にできる。
- ・研究テーマに適した研究方法を選択できる。
- ・配慮すべき倫理的な事項を列挙できる。
- ・研究計画書を決められた形式で作成できる。

特別研究（実験・調査）

- ・研究計画書にそって、具体的に実験・調査を設定できる。
- ・実験・調査を実際に実施する中で、必要な技術を修得する。
- ・研究の信頼性、妥当性を確保するための事項を理解している。
- ・当該実験・調査の限界と課題を理解している。
- ・実験・調査のデータ分析が適切に行える。
- ・実験・調査から得られた結果を検討し、新しい知見を抽出できる。

特別研究（ゼミナール）

- ・研究課題を分かり易く説明できる。
- ・研究の問題点を他者と議論し、深められる。
- ・ゼミでの他者の意見を参考に、研究方法等の改善ができる。

特別研究（論文作成）

- ・基本的な論文構成（緒言・研究方法・結果・考察・結語・引用文献）に従って、論文を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く、正確に記述できる。
- ・研究の論理を明確に記述できる。
- ・倫理上の配慮した記述ができる。

特別研究（研究発表）

- ・発表要旨・抄録を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く表現したスライドおよび発表原稿を作成できる。
- ・発表時間内で分かり易く研究内容を説明できる。
- ・質問の意図を理解しようと努める。
- ・質問に対して、適切な回答をするように努める。

課題研究

到達目標

医療の場を含む人々の健康的な生活の場で生じる諸々の現象をふまえて、主専攻と「看護学の発展」の視座から課題を探究し、教員の指導のもとに論文を作成する。

1 共通科目

授業科目：健康情報論（2単位）

到達目標：健康に関わる情報の特性を理解する。
 健康支援に必要な保健・医療の IT 化を理解する。
 保健・医療における IT 化の状況を理解する。
 健康支援のための保健・医療情報の活用の視点を理解する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.6.14	木	6,	保健医療分野における IT の利用法 ーデータの集積とその活用ー	赤澤宏平 (非常勤講師)	看護学科棟 保健指導室 (2階)
2・3	22.6.21	〃	6・7	健康に関わる情報の特性 健康支援に必要な保健・医療の IT 化	栗原幸男	
4・5	22.6.28	〃	〃	保健・医療における IT 化の変遷	〃	
6・7	22.7.05	〃	〃	保健・医療データの標準化	〃	
8・9	22.7.12	〃	〃	医療データ（電子カルテ）と健診データ	〃	
10・11	22.7.26	〃	〃	広く活用できる保健・医療データベース	〃	
12・13	22.8.02	〃	〃	健康支援の情報提供のあり方	〃	
14・15	22.9.06	〃	〃	保健・医療における AI 活用の可能性と課題	〃	

参考図書：

1. Kathryn J. Hannah, Marion J. Ball and Margaret J.A. Edwards. Health Informatics: Introduction to Nursing Informatics. Springer.
2. 日本医療情報学会 10 周年記念出版編纂委員会. 医療情報学 1～3 巻. (有) ネットワーク.
3. 中野正孝ほか. 系統看護学講座 基礎 8. 情報科学. 医学書院.
4. 西垣 克監訳. 看護とコンピュータ. 医歯薬出版.

授業科目：保健統計論（2単位）

- 学習目標：1) 看護研究を実際に行って収集されたデータの特性について学習する。
- 2) 母集団から抽出された標本データから母集団の特性を推定するために、平均値等の集団の特性値及びその検定手法、比率の検定手法を理解する。
- 3) 看護研究でしばしば用いられる調査票を用いた手法について、社会調査論の立場から実施手技について理解し、得られたデータの収集・解析・評価の実際を学習する。
- 4) 人間の健康や障害に係わる事象と影響する要因との因果関係を推定するための統計手法（二次クロス・三次クロス・多変量解析）を実際に SPSS、Excel 統計等の統計ソフトを用いて学習する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.10.4	月	6・7	SPSS の使い方	吾妻 健	地域看護学講座・地域看護学 共同研究室（4階）
2	10.18	〃	〃	保健統計学①データの取扱い	〃	
3	10.25	〃	〃	保健統計学②比率の比較検定	〃	
4	11.1	〃	〃	保健統計学③平均値の比較検定	〃	
5	11.8	〃	〃	基礎統計学, 2 群間の比較	高尾俊弘	
6	11.15	〃	〃	分散分析と多重比較	〃	
7	11.22	〃	〃	独立性の検定	〃	
8	11.29	〃	〃	演習とまとめ	吾妻、高尾	

授業科目：健康環境論（2単位）

- 学習目標：1) 人間の健康に影響を与える要因に対する基本的視座を学び、疾病や障害の発生するメカニズムを理解する。
- 2) 健康要因の中でも特に内部環境（ホメオスターシス）の破綻が人間の健康に与える影響を学習する。
- 3) 環境ホルモンの人体への曝露に関する影響を学び、疾病や異常を引き起こす許容限界の考え方を理解する。
- 4) 人間の健康に影響を与える要因のうち、ストレスのマネジメント、リスクコミュニケーションの実際を数名のグループに分かれて検討し、各グループの考えをプレゼンテーションする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.12.6	月	6・7	ホメオスターシスと健康	高尾俊弘	地域看護学講座・地域看護学 共同研究室（4階）
2	12.13	〃	〃	グループワーク	〃	
3	12.20	〃	〃	グループワークとプレゼンテーション	〃	
4	23.1.17	〃	〃	環境ホルモンと健康	〃	
5	1.24			グループワーク		
6	1.31	〃	〃	グループワークとプレゼンテーション	〃	
7	2.7	〃	〃	ストレスと健康	〃	
8	2.14	〃	〃	プレゼンテーションおよびまとめ	〃	

授業科目：看護研究論（2単位）

学習目標：看護における研究の意義や役割を理解すると共に、他の研究論文などのクリティークを通して各自の研究に必要な研究枠組みや研究方法、研究計画から論文作成までの研究概要について理解ができる。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月12日	月	6	看護研究の意義・役割	坂本	基礎看護学（3階）・精神看護学（6階） いずれかの共同研究室
2	4月12日	〃	7	看護研究の動向と倫理	坂本	
3	4月19日	〃	6	研究課題と文献検討	坂本	
4	4月19日	〃	7	研究デザイン・研究方法概要	坂本	
5	4月26日	〃	6	量的研究法(1)	野村	
6	4月26日	〃	7	量的研究法(2)	野村	
7	5月10日	〃	6	質的研究法(1)	戸田	
8	5月10日	〃	7	質的研究法(2)	戸田	
9	5月17日	〃	6	英文看護論文査読 量的研究法(1)	吾妻	
10	5月17日	〃	7	英文看護論文査読 量的研究法(2)	吾妻	
11	5月24日	〃	6	英文看護論文査読 質的研究法(1)	吾妻	
12	5月24日	〃	7	英文看護論文査読 質的研究法(2)	吾妻	
13	5月31日	〃	6	研究計画プレゼンテーション(1)	坂本・戸田 野村	
14	5月31日	〃	7	研究計画プレゼンテーション(2)	坂本・戸田 野村	
15	6月7日	〃	6	研究計画プレゼンテーション(3)	坂本・戸田 野村	

授業科目：看護理論（2単位）

到達目標

1. 看護学における看護理論の位置づけを学び、これまでに開発された諸理論について理解する。
2. 看護実践の中で応用可能な中範囲理論と基礎となる広範囲理論の概念について理解し、活用法について説明できる。
3. 学生の看護実践の具体的現象を取り上げ、理論を用いて説明できる。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.6.17	木	6	1) 看護理論の発展 ① 看護理論入門：歴史・用語・分析 ② 専門領域および専門職としての看護における理論の重要性	尾原喜美子	成人看護学（7階）・小児看護学（5階） いずれかの共同研究室
2	〃	〃	7	③ 科学の歴史と哲学 ④ 論理的推論 ⑤ 理論開発の過程		
3	6.24	〃	6	2) 看護理論 ① 看護理論の分類 ② 看護理論の種類 ③ 理論の評価 ④ 看護理論家とその理論の特徴 (演習計画)	高橋 永子	
4	〃	〃	7	3) 看護理論の実践への適応		
5	7.1	〃	6	看護理論家とその理論の特徴（1） discussion	高橋 永子 尾原喜美子	
6	〃	〃	7	看護理論家とその理論の特徴（2） discussion	〃	
7	7.8	〃	6	看護理論家とその理論の特徴（3） discussion	〃	
8	〃	〃	7	看護理論家とその理論の特徴（4） discussion	〃	
9	7.15	〃	6	看護理論家とその理論の特徴（5） presentation、 discussion	〃	
10	〃	〃	7	看護理論家とその理論の特徴（6） presentation、 discussion	〃	
11	7.22	〃	6	看護実践の理論への適用（1） discussion	〃	
12	〃	〃	7	看護実践の理論への適用（2） discussion	〃	
13	7.29	〃	6	看護実践の理論への適用（3） presentation、 discussion	〃	
14	〃	〃	7	看護実践の理論への適用（4） presentation、 discussion	〃	
15	9.2	〃	6	看護実践の理論への適用（5） presentation、 discussion	〃	

使用教科書

1. Ann Marriner-Tomey 都留伸子監訳：Nursing Theorists And Their Work
看護理論家とその業績第3版、医学書院、2004.

参考書

1. Julia B. George 南裕子他訳：NURSING THEORIES TheBase for Professional Nursing Practice 看護理論集 より高度な看護実践のために、日本看護協会出版会、2003.

授業科目：看護倫理（2単位）

学習目標：倫理の概念について文化的背景を比較しながら概観し、医療及び看護に関連した倫理の位置付け、看護者の実践活動に関する各種倫理規定、実践の場で遭遇する倫理的ジレンマの抽出及びそれらに対応できる知識を修得する。

講義回数	月日(曜)	時間	テーマ	担当教員	場所
1	4/13 (火)	7	看護倫理の歴史的背景	片岡万里	6階 老年看護学 共同研究室
2,3	4/24 (土)	3,4	「倫理」の概念と医療倫理	阿部眞司	
4	4/27 (火)	7	ナイチンゲールと看護倫理	片岡万里	
5	5/11 (火)	7	日常生活にみる倫理	〃	
6	5/18 (火)	7	現代社会と倫理 1	〃	
7	5/25 (火)	7	現代社会と倫理 2	〃	
8	6/1 (火)	7	課題 1 発表	〃	
9	6/8 (火)	7	看護職者に関する各種倫理規定 1	〃	
10	6/15 (火)	7	看護職者に関する各種倫理規定 2	〃	
11	6/22 (火)	7	看護研究に関する倫理 1	〃	
12	6/29 (火)	7	看護研究に関する倫理 2	〃	
13	7/6 (火)	7	看護職者の直面するジレンマ	〃	
14	7/13 (火)	7	看護職者の直面するジレンマの検討	〃	
15,16	7/24 (土)	3,4	課題 2 発表	〃	

連絡先

片岡研究室 TEL/FAX : 088-880-2538;e-mail:mkataoka@kochi-u.ac.jp

テキスト

日本看護協会編：平成 15 年版 看護白書、p.3-93,p217-235, 日本看護協会出版会, 2003.

参考文献

- 1) 坪倉繁美編：具体的なジレンマからみた看護倫理の基本,医学芸術社, 2005.
- 2) 岡崎寿美子・小島恭子編：ケアの質を高める看護倫理 ジレンマを解決するために,医歯薬出版株式会社,2002.
- 3) マーティン・ベンジャミン、ジョイ・カーティス著,矢次正利他訳：臨床看護のディレンマ(1),(2),(3), 時空出版, 2000.

授業評価

課題と授業参加度

授業科目：ペアレンティング学 (2単位)

学習目標: 子どもの生命が尊重され、健やかに育つ社会を育成するために、Parenting Education について理解を深める。人間のライフサイクルの中で生命誕生から小児期、思春期の「将来の親」となる人、成人期、壮年期の「親となる過程」の人が抱える現代諸問題及び看護専門者としての次世代育成や家族支援の方法について追及する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.10.8	金	6	ペアレンティング学の概念 ペアレンティング・エデュケーションの定義	尾原	母性看護学 (5階) の共同研究室
2	10.15	〃	6	現代家族の実態と諸問題	〃	
3	10.22	〃	6	変化する現代の家族 1 社会の変化と子どもの環境 1	植田	
4	10.29	〃	6	変化する現代の家族 2 社会の変化と子どもの環境 2	〃	
5	11.5	〃	6	ライフサイクルと家族の健康 家族看護学の基礎・家族看護学の動向	尾原	
6	11.12	〃	6	家族看護学における理論 1 システム理論の活用	川島	
7	11.19	〃	6	家族看護学における理論 2 家族役割・発達理論の活用	〃	
8	11.26	〃	6	家族看護学における理論 3 家族ストレスと家族対処理論の活用	尾原	
9	12.3	〃	6	家族看護の研究と実践	〃	
10	12.10	〃		母子関係の形成と課題	濱田	
11	12.17	〃	6	女性のライフサイクルと家族の健康	〃	
12	12.24	〃	6	母子の心理・社会をめぐる諸問題	北村	
13	23.1.7	〃	6	親子関係の作り方 1 Parenting Education Training 1	尾原	
14	1.14	〃	6	親子関係の作り方 2 Parenting Education Training 2	〃	
15	1.21	〃	6	事例の分析とまとめ	〃	

授業科目：看護英語（2単位）

到達目標：看護及び医療に関する研究論文について数多く購読し、グローバルな視点を持ちながら、基本的な医学・看護用語の習得と基礎的な英語読解力を強化し、自らの専門領域の英語論文を読みこなす力をつける。また、修士論文研究作成に必要な英語力全般の能力を培う。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	H22.10.1	金	7	Developments in the world	植田 味佐	小児看護学（5階）の共同研究室
2	10.8	〃	〃	〃	〃	
3	10.15	〃	〃	〃	〃	
4	10.22	〃	〃	〃	〃	
5	10.29	〃	〃	〃	〃	
6	11.5	〃	〃	〃	〃	
7	11.12	〃	〃	〃	〃	
8	11.19	〃	〃	〃	〃	
9	11.26	〃	〃	〃	〃	
10	12.3	〃	〃	〃	〃	
11	12.10	〃	〃	〃	〃	
12	12.17	〃	〃	〃	〃	
13	12.24	〃	〃	〃	〃	
14	H23.1.7	〃	〃	〃	〃	
15	1.21	〃	〃	〃	〃	
16	1.28	〃	〃	試験	〃	

教科書及び参考書等

- 1) www.voanews.com/specialenglish/
- 2) Longman Dictionary of Contemporary English

看護教育・管理学分野の特色

看護教育学分野においては、学士課程教育および学部卒業後の継続教育（生涯学習）が論理的・創造的・合理的・効率的に実施できる基礎的能力の育成を推進します。看護管理学分野においては、存在する医療資源や社会資源などをアセスメントして有効活用する看護管理能力を高める能力の育成を推進します。チームケアの中でリーダーとしての資質を養う目的から、看護教育学と看護管理学を併せて学習することで、教育と看護実践のリーダーとなる資質、或は管理者としての能力を併せ持つ人材を育成します。地域貢献として基礎教育のほか、継続教育・生涯教育推進も重視した看護教育学を修得します。

さらに、看護管理学においては高知県のような自然災害が多く山間部が多いという地域特性に合わせ、災害看護管理や訪問・在宅看護のシステムなどについての知識を修得します。

また、社会的ニーズとして、今後、ますます必要となる看護・医療におけるIT技術を習得するため、特に必要性が重視される本領域専攻の学生に対し、保健医療の情報処理の演習を本学附属病院の情報システムおよび医療データベースを活用して実践的に行います。

授業科目名	講義等の内容	担当教員
看護教育・管理学特論Ⅰ	看護教育学の歴史や制度、看護学教育の課程と評価の考え方、基礎教育と継続教育・生涯教育における概念と方法、在宅看護支援従事者のための生涯教育のあり方、看護学教育に有用な方法論などについて教授します。	高橋 永子 尾原喜美子 坂本 雅代
看護教育・管理学特論Ⅱ	看護管理の基本となる諸理論、組織行動学について教授し、看護管理実践への適用について探求します。さらに看護管理過程、看護の質保証と看護管理、経営管理、および、災害看護管理などについて教授します。	高橋 永子 齋藤 美和 平瀬 節子
看護教育・管理学演習	看護教育学と看護管理学の両分野にまたがる課題や、看護教育学の現況と課題・方向性、看護機能・看護業務と看護管理などの課題について問題解決型の演習を行います。	高橋 永子 尾原喜美子 坂本 雅代 齋藤 美和 平瀬 節子
保健医療情報学演習	本学の特徴の一つである医療情報システムを保健医療におけるIT活用のモデルとして、看護教育・看護管理の実践および研究におけるIT活用と医療情報データベース活用の方法を学習し、情報学的手法を各自の研究課題に応用する演習を行います。	栗原 幸男

授業科目：看護教育・管理学特論 I（2単位）

学習目標：看護教育学とは何か、歴史や社会背景をふまえて考察するとともに、看護学教育制度や看護教育方法について理解する。また、看護の質を向上するための看護継続教育の取り組みについてその課題を検討し明らかにする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.4.15	木	6	看護教育学の概念	坂本	基礎看護学（3階）・小児看護学（5階）・いずれかの共同研究室
2	〃	〃	7	看護教育学の歴史の変遷	〃	
3	4.22	〃	6	看護学教育制度の成り立ちと特徴1	〃	
4	〃	〃	7	看護学教育制度の成り立ちと特徴1	〃	
5	5.6	〃	6	看護教育課程論1	〃	
6	〃	〃	7	看護教育課程論2	野村	
7	5.13	〃	6	看護教育学組織運営論1	尾原	
8	〃	〃	7	看護教育学組織運営論2	〃	
9	5.20	〃	6	看護学教育授業展開論1	尾原	
10	〃	〃	7	看護学教育授業展開論2	岡田	
11	5.27	〃	6	生涯教育と看護継続教育論1	坂本	
12	〃	〃	7	生涯教育と看護継続教育論2	〃	
13	6.3	〃	6	看護教育方法論（プレゼンテーション）	坂本・野村 岡田	
14	〃	〃	7	看護教育方法論（プレゼンテーション）	〃	
15	6.10	〃	6	まとめ	〃	

授業科目：看護教育・管理学特論Ⅱ（2単位）

到達目標：

1. 看護管理の基本となる諸理論および看護管理過程のあり方を探求し、看護管理者に求められる役割と責務について理解する。
2. 看護管理をめぐる課題について探求し、それらの課題を解決するための方策を立案する。
3. 看護ケアに携わる人材の育成について、キャリアの概念を学び、組織における人材の育成と活用について実践事例を通して理解する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.4.14	水	6	ガイダンス	高橋永子	基礎看護学共同研究室(3階) 又は 成人看護学共同研究室(7階)
2		〃	7	看護管理の機能と役割	〃	
3	4.21	〃	6	看護組織の成り立ち、変革への対応	〃	
4		〃	7	看護管理をめぐる課題	〃	
5	4.28	〃	6	看護管理システム論（1）	齋藤美和	
6		〃	7	看護管理システム論（2）	〃	
7	5.12	〃	6	看護管理者に必要なスキル （人間関係を構築するスキル）	平瀬節子	
8		〃	7	看護管理者に必要なスキル （組織の効率性を高める技術）	〃	
9	5.19	〃	6	組織運営と人材育成の実際	宮井千恵	
10		〃	7	組織運営と人材育成の実際	〃	
11	5.26	〃	6	業務改善事例（プレゼンテーション）	高橋永子	
12		〃	7	業務改善事例（プレゼンテーション）	〃	
13	6.2	〃	6	キャリア開発(人材育成)	平瀬節子	
14・15	6.14	月	3・4	医療過誤訴訟の現状と今後の見通し	金平克也 弁護士〃	

参考書：

1. 看護管理学習テキスト（全8巻・別巻）、日本看護協会出版会、2006.
2. Stephen P. Robbins 高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2006.
3. 中西睦子：看護サービス管理 第2版、医学書院、2002.
4. 高橋淑郎：医療経営のバランス・スコアカード、生産性出版、2004.
5. Edgar H. Schein 二村敏子訳：キャリア・ダイナミクス、白桃書房、2000. .
6. 見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門、日本看護協会出版会、2007.

授業科目：看護教育・管理学演習（2単位）

到達目標：

1. 看護教育・管理学分野における課題について、文献レビュー・議論を通して今日的課題を明確にする。
2. 問題解決型の演習により、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	22.10.06	水	6・7	看護管理学の現状分析と課題の探求	高橋永子	(3階) (4階) (5階) (7階) いずれかの共同研究室
3・4	10.13	〃	〃	看護教育学の現状分析と課題の探求	坂本雅代	
5・6	10.20	〃	〃	生涯教育・人材育成の現状分析と課題の探求	平瀬節子	
7・8	10.27	〃	〃	実習指導者教育の現状分析と課題の探求	坂本雅代	
9・10	11.10	〃	〃	看護組織運営の現状分析と課題の探求	高橋永子	
11・12	11.17	〃	〃	看護の質保証と評価に関する現状分析と課題の探求	斉藤美和	
13・14	11.24	〃	〃	研究計画書の作成 (1)	高橋永子 尾原喜美子 坂本雅代 斉藤美和 平瀬節子	
15・16	12.01	〃	〃	研究計画書の作成 (2)		

*授業の進め方

授業内容、スケジュールについては、学生の希望を考慮し変更する場合があります。

参考図書

1. 舟島なおみ：看護教育学研究—発見・創造・証明の過程、医学書院、2002.
2. 杉森みど里他：看護教育学、医学書院、2005
3. Kathleen R 他 杉森みど里監訳、エビデンスに基づく看護教育学、医学書院、2003
4. 佐藤みつ子他：看護教育における教育カリキュラムと「看護学体系」、日本看護協会出版会、1998.
4. 藤岡完治他：学生とともに創る臨床実習指導ワークブック、医学書院、1996.
5. 松木光子監：看護学臨地実習ハンドブック、金芳堂、1996.
6. Rheba de Tornay, Martha A. Thompson 中西睦子他訳：看護学教育のストラテジー、医学書院、1993.
7. Stephen P. Robbins 高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2006.
8. Paul Hersey 山本成二：行動科学の展開—人的資源の活用—生産性出版、2006.
9. 松下博宣：続看護経営学、日本看護協会出版会、2006.
10. 小山秀夫：病院のDON 看護管理で病院がよみがえる、医学書院、2006.

授業科目：保健医療情報学演習（2単位）

到達目標：保健医療情報の特性を理解する。

看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現法を修得する。

保健医療情報を分析する手法を修得する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.10.7	木	6	情報学視点からの保健医療研究論	栗原幸男	看護学科棟 保健指導室 (2階)
2・3	未定*		6・7	保健医療情報の特性		
4・5	〃	〃	〃	看護教育・看護管理の研究における対象の情報（データ）表現	〃	
6・7	〃	〃	〃	看護教育・看護管理における研究対象の情報（データ）表現演習	〃	
8・9	〃	〃	〃	保健医療情報の分析手法	〃	
10・11	〃	〃	〃	保健医療情報の分析方法の検討演習	〃	
12・13	〃	〃	〃	保健医療情報学の研究事例の検討	〃	
14・15	〃	〃	〃	総括	〃	

*：2回目以降の授業日は履修学生と相談する。

参考図書：

1. Marion J. Ball, Kathryn J. Hannah, Susan K. Newbold and Judith V. Douglas. Health Informatics: Nursing Informatics. Springer.
2. 日本医療情報学会 10周年記念出版編纂委員会. 医療情報学1～3巻. (有) ネットワーク.
3. Rita D. Zielstorff (編)、西垣 克 (監訳). 看護とコンピュータ. 医歯薬出版.

母子看護学分野の特色

母子看護学分野では、母子の健康と QOL, 母性性の発達, 育児過程に関する QOL と看護について, あるいは施設などにおける子どもの療養生活と QOL, 不安の解決やセルフケアを促すための看護などについて, QOL 重視の母子健康課題の発見と展開という問題解決型の学習を重視します。未来の子どもや大人の健康と生活を擁護し, 子どもが健康に成長発達でき安心して暮らすことのできる社会を迎えるために, 人間の健康や健康生活, 家族の役割, 機能, 発達に関する課題を探求します。すべてのライフステージにある女性の Reproductive Health の状態を適切に診断し, 母子の生活や健康問題を把握するために必要な理解と知識を学習します。また, 小児と家族に関する諸理論・研究, 実践について分析し母子看護の発展過程や現状について学習します。さらに, 母子を取り巻く社会や政策, 母子の健康問題に影響する諸因子について理解し, 次世代の健全育成のために必要な看護の役割の開発ができる能力を修得します。

授業科目名	講義等の内容	担当教員
母子看護学特論Ⅰ	生活における女性の QOL 向上のための看護という視野に立って母性性の発達や育児のための看護支援などを扱います。女性の思春期から妊娠・産褥期, 育児期, 更年期に至るまでの生涯にわたる心理的・成長・発達, 社会的側面及び生理的反応を理解・分析する基礎的研究, 母性性の発達や妊娠の生活, 育児態度と生活要因などについて教授します。	尾原喜美子 川島 美保 濱田佳代子 北村亜希子
母子看護学特論Ⅱ	小児, 親, 家族, また小児を取り巻く環境との相互作用を理解するための理論と看護への活用方法について学習します。小児の各期における成長発達の特性や重要他者との関係, 家族発達など小児看護における重要な課題について追求します。	尾原喜美子 植田味佐 (非常勤) 川島 美保 濱田佳代子 北村亜希子
母子看護学演習	母子看護に関する特論Ⅰ・Ⅱに示したテーマの研究や重要課題について, 文献レビューとクリティーク, フィールドワークをさせ, 自ら問題を展開する思考を養い, 批判力及び研究を実践するための基本的能力を修得します。	尾原 喜美子 植田味佐 (非常勤) 川島 美保 濱田佳代子 北村亜希子

授業科目：母子看護学特論 I (2単位)

学習目標：あらゆる世代の女性及び子どもと家族の健康増進のための課題を探求し明確にする。時代の変化及び日本の歴史的背景・文化、諸理論の理解を基に母性と子どもの課題の具体的な支援のあり方を追求する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当 教員	場所
1	22.4.16	金	6	オリエンテーション 子どもと家族を取り巻く環境	尾原	母性看護学共同研究室 (5階)
2	4.23	〃	6	子どもと家族を理解するための理論1 (発達理論1)	〃	
3	4.30	〃	6	子どもと家族を理解するための理論2 (発達理論2)	〃	
4	5.7	〃	6	子どもと家族を理解するための理論3 (セルフケア、コーピングの理論など)	川島	
5	5.14	〃	6	子どもと家族を援助するための理論4 (ソーシャルサポート理論、家族の理論)	〃	
6	5.21	〃	6	子どもと家族を守る理論に関する課題	尾原	
7	5.28	〃	6	母と子の絆	宮井	
8	6.4	〃	6	小児専門看護師の役割	武市	
9	6.11	〃	6	慢性疾患をもつ子どもと家族の看護	〃	
10	6.18	〃	6	妊娠・出産、育児の歴史的な歩み	濱田	
11	6.25	〃	6	今日の周産期医療の実態	〃	
12	7.2	〃	6	母性看護学における主要な概念	〃	
13	7.9	〃	6	生殖医療の発達に伴う倫理的課題	〃	
14	7.16	〃	6	わが国の母性看護学領域における研究の 動向	〃	
15	7.23	〃	6	女性のライフサイクルにおける健康問題	北村	

授業科目：母子看護学特論Ⅱ（2単位）

学習目標：母子の生活における QOL の向上を目指した看護の基礎的検討を行う。母子の自律や自己決定や療養における諸症状や反応について検討し、セルフケアにおける課題の抽出や倫理等について理解を深める。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.4.13	火	6	Current topics in pediatric maternal nursing	植田味佐	臨床看護学講座・小児看護学共同研究室（5階）
2	4.20	〃	〃	〃	〃	
3	4.27	〃	〃	〃	〃	
4	5.11	〃	〃	〃	〃	
5	5.18	〃	〃	〃	〃	
6	5.25	〃	〃	〃	〃	
7	6.1	〃	〃	〃	〃	
8	6.8	〃	〃	〃	〃	
9	6.15	〃	〃	〃	〃	
10	6.22	〃	〃	母子看護に関する研究成果の適用	尾原	
11	6.29	〃	〃	〃	〃	
12	7.6	〃	〃	母親役割理論の母子看護への適応	〃	
13	7.13	〃	〃	家族システム理論と母子看護	〃	
14	7.20	〃	〃	家族看護理論と小児看護	〃	
15	7.27	〃	〃	母子保健医療と福祉制度について	〃	

授業科目：母子看護学演習（1）（4単位）

学習目標：母子看護に関する特論に示したテーマの研究や重要課題について文献レビューとクリティーク、フィールドワークをし、自ら問題を展開する思考を養い、批判力及び研究を実践するための基本的能力を培う。

講義回数	年月日	曜日	時限	テ　ー　マ	担当教員	場所
1	22.10.5	火	6	Current topics in pediatric nursing care & study	植田啄佐	小児共同研究室 (5F)
2	10.12	〃	6	〃	〃	
3	10.18	〃	6	〃	〃	
4	10.26	〃	6	〃	〃	
5	11.2	〃	6	〃	〃	
6	11.9	〃	6	〃	〃	
7	11.16	〃	6	〃	〃	
8	11.30	〃	6	〃	〃	
9	12.7	〃	6	〃	〃	
10	12.14	〃	6	現代医療をめぐる倫理的問題の検討	尾原	
11	12.21	〃	6	女性と子ども・かぞくの健康支援と倫理的問題	〃	
12	23.1.11	〃	6	母子の健康問題の分析	〃	
13	1.18	〃	6	助産領域における生命倫理	〃	
14	1.25	〃	6	生涯を通じての女性の健康問題	〃	
15	2.1	〃	6	子どもと家族に関する医療・福祉・教育の現状	〃	

授業科目：母子看護学演習（2）

学習目標：母子看護学、小児看護学における重要課題、母子保健の現状と課題を中心に基礎的・応用的に文献を読み先行研究のクリティークや事例を分析しながら研究法の基礎を修練し、事故の研究課題を明確にしながら研究計画の作成をする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.10.5	火	7	オリエンテーション 母子及び家族に関する研究の概要	尾原	母性看護学共同研究室（5階）
2	10.12	〃	〃	母子看護学領域における研究の動向 母子保健の実態と課題	濱田	
3	10.18	〃	〃	子我が国の子どもと家族の研究の動向、 小児保健の実態と看護	川島	
4	10.26	〃	〃	母子保健における課題の明確化 (プレゼンテーション)	尾原	
5	11.2	〃	〃	子どもと家族に関する課題の明確化 (プレゼンテーション)	尾原	
6	11.9	〃	〃	母子看護領域の研究と倫理	濱田	
7	11.16	〃	〃	看護研究方法の検討1（質的研究）	川島	
8	11.30	〃	〃	看護研究方法の検討2（量的研究）	濱田	
9	12.7	〃	〃	小児看護研究のクリティーク	川島	
10	12.14	〃	〃	母性看護研究のクリティーク	濱田	
11	12.21	〃	〃	研究計画書の作成1	尾原	
12	23.1.11	〃	〃	研究計画書の作成2	〃	
13	1.18	〃	〃	研究計画書の作成3	〃	
14	1.25	〃	〃	研究計画書のプレゼンテーション4	〃	
15	2.1	〃	〃	研究計画書の修正・まとめ	〃	

授業の進め方：ゼミナール形式

（学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し学習を深める。授業内容スケジュールについては、学生の希望及び反応Ⅱより、漸次修正する。）

成人・老人看護学分野の特色

成人・老人看護学分野では、在宅患者や地域で生活する成人・老人に対して、QOLの向上を目指す看護を念頭において、その生活の場における成人・老人の生活状況や社会資源、看護支援の現況などを把握・分析して、在宅でのクライアントのための在宅・訪問看護や家族への支援、健康を増進させるための幅広い年齢層への看護ケアのあり方などを検討します。また、病院や老人施設などの施設で生活する成人・老人療養患者、或はその家族などへのQOLの向上を目指す看護についても修得します。さらに、成人期における看護として重大な意味を持つ周手術期及び慢性期における患者や家族に対する看護を修得させます。更に、健康障害を持つ老人やその家族を対象とし、人々の尊厳とQOLを高めるための看護等をテーマに取り上げ問題解決型の学習を重視します。そして、成人期のライフステージにある人々とその家族の心の看護について教授します。

授業科目名	講義等の内容	担当教員
成人・老人看護学特論Ⅰ	在宅患者や地域で生活する成人・老人などに対してQOLの向上を目指した看護を行うため、生活状況や社会資源、看護支援の現況などを把握・分析して、在宅等のクライアントのための在宅・訪問看護支援を推進するための看護介入策などについて教授します。そして、成人期のライフステージにある人々とその家族の心の看護について教授します。	吾妻 健 溝渕 俊二 戸田由美子 齋藤 美和 山脇 京子 青木 早苗
成人・老人看護学特論Ⅱ	地域あるいは施設で治療、療養する成人・高齢者及びその家族のQOL向上を主とする看護について教授します。成人期における慢性疾患患者や高齢者における認知症などの障害をもつ患者及びその家族の看護に必要な知識について学習します。さらにこれらの患者の尊厳とQOLを高めるための方法について議論します。	高尾 俊弘 片岡 万里 藤田 晶子 高橋 美美 杉本 加代 小笠原木綿
成人・老人看護学演習	成人・老人看護学特論Ⅰ、Ⅱで修得した知識を、実践の場で演習し、文献検討を行います。在宅患者や地域、或は施設で生活する成人・老人に対する看護について演習するとともに、成人・老人の健康障害者に対するQOLを重視した看護について、それぞれ課題を取り上げて演習します。	吾妻 健 片岡 万里 高尾 俊弘 溝渕 俊二 戸田由美子 藤田 晶子 齋藤 美和 山脇 京子 青木 早苗 高橋 美美 杉本 加代 小笠原木綿

授業科目：成人・老人看護学特論Ⅰ（2単位）

- 到達目標：1) M・キングの Transaction Theory に基づき人間と環境を捉え、ヘルスプロモーションについて学ぶ。
 2) 環境（生活習慣）及び遺伝と健康について理解する。
 3) 成人期における健康障害の現状について学習し、疾病の自己管理や QOL としての健康について学ぶ。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4. 16	金	7	環境保健の動向	田口 徹也	成人看護学講座成人看護学共同研究室（7階）
2	4. 23	〃	〃	進化医学（1）	吾妻 健	
3	5. 7	〃	〃	進化医学（2）	吾妻 健	
4	5. 14	〃	〃	生活習慣と健康	高橋美美	
5	5. 21	〃	〃	慢性疾患と共に生活する人への看護（1）	高橋永子	
6	5. 28	〃	〃	慢性疾患と共に生活する人への看護（2）	高橋永子	
7	6. 4	〃	〃	栄養サポートチーム（NST）の役割	溝渕俊二	
8	6. 11	〃	〃	精神面からとらえた健康（1）	戸田由美子	
9	6. 18	〃	〃	静脈・経腸栄養療法について	溝渕俊二	
10	6. 25	〃	〃	精神面からとらえた健康（2）	戸田由美子	
11	7. 2	〃	〃	栄養療法実践のための症例検討	溝渕俊二	
12	7. 9	〃	〃	がん看護（1）	山脇京子	
13	7. 16	〃	〃	がん看護（2）	山脇京子	
14	7. 23	〃	〃	ターミナルケア（1）	青木早苗	
15	7. 30	〃	〃	ターミナルケア（2）	青木早苗	

参考書：分子予防環境医学 分子予防環境医学研究会 編 本の泉社
 ストレスの心理学、リチャード・S・ラザルス他著 実務教育出版、1991年初版
 ジュリア・B・ジョージ、訳南裕子他、看護理論集、増補改訂版 ーより高度な看護実践のためにー
 日本看護協会出版会、1998
 大西和子他編、成人看護概論、ヌーベルヒロカワ、2009年
 系統看護学講座、成人看護学総論、医学書院、2009年

授業科目：成人・老人看護学特論Ⅱ（2単位）

学習目標：地域で治療あるいは療養する成人・高齢者を対象にして、その家族への援助を含めて QOL を維持、向上するための支援について、施策とケアの側面から教授し、健康を障害した成人高齢者が社会で共生できるためのシステムの構築について議論します。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.6.16	水	6	高齢者とその家族の QOL について (1)	片岡万里	地域看護学共同研究室（4階） 又は老年看護学共同研究室（6階）
2	〃	〃	7	高齢者とその家族の QOL について (2)	〃	
3	6.23	〃	6	高齢者とその家族の QOL について (3)	〃	
4	〃	〃	7	在宅療養と居住環境（1）	藤田晶子	
5	6.30	〃	6	在宅療養と居住環境（2）	〃	
6	〃	〃	7	在宅療養と居住環境（3）	〃	
7	7.7	〃	6	生活習慣と健康(1)	高尾俊弘	
8	〃	〃	7	生活習慣と健康(2)	〃	
9	7.14	〃	6	生活習慣と健康(3)	〃	
10	〃	〃	7	成人と健康(1)	齋藤美和	
11	7.21	〃	6	成人と健康(2)	〃	
12	〃	〃	7	成人と健康(3)	〃	
13	7.28	〃	6	高齢者の現状と課題	杉本加代	
14	〃	〃	7	在宅療養を支える看護	小笠原木綿	
15	8.4	〃	6	臨床指標	笠原聡子	

授業科目：成人・老人看護学演習（1）（4単位）

到達目標：本科目では、人間・健康・環境・看護に関するグローバルな検討及び思索を行い、専門看護職者としての看護支援に関する職能の向上に寄与する。演習では看護支援のあり方について文献講読及び事例検討を行い、看護実践場面における問題解決能力・マネジメント能力を拡充させる。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	10.6	水	6・7	文献講読・事例検討（1）	吾妻 健	看護学科棟7階・成人看護学共同研究室
3・4	10.20	〃	6・7	文献講読・事例検討（2）	高橋永子	
5・6	11.10	〃	6・7	文献講読・事例検討（3）	溝渕俊二	
7・8	11.24	〃	6・7	文献講読・事例検討（4）	戸田由美子	
9・10	12.8	〃	6・7	文献講読・事例検討（5）	山脇京子	
11・12	12.22	〃	6・7	文献講読・事例検討（6）	山脇京子	
13・14	1.12	〃	6・7	文献講読・事例検討（7）	青木早苗	
15・16	1.26	〃	6・7	文献講読・事例検討（8）	青木早苗	

参考書：精神分裂病急性期の患者に対する看護ケアの意味とその構造、萱間真美、看護研究、24（5）、59-77（1991）

